



まき割り・秋の味覚

燃料づくりから始まる山のアクティビティ 適切な装備と安全確認の徹底を

【まき割り】

近年、山遊びのアクティビティとして人気が出ているのがまき割りの体験です。焚き火や炊事、バーベキュー、おやつづくりなど、まき割りは、山で火を使うために避けては通れないプロセスでもありま

す。とはいえ、大きな斧を振り回すため、下手をすると命を落としかねない作業。まき割りを行う際は、徹底した安全管理が必要で、今回は、初心者向けの新割りを紹介し

ます、まきは枝分かれしていない部分を準備します。参加者には、事前に軍手と安全靴の装着を案内し、斧が届く範囲に入らないこと、作業者の前後に立たないことを必ず

告げておきます。続いて、作業者の立ち位置は、右図のように、まきの正面に体がくるように立ちます。左右に足を開いて構えること

がポイントで、薪と斧と体の中心が一直線になるようにします。これは空振りした斧の刃が自らの足を打たないようにするためです。

準備ができたなら斧を振り上げ、斧の重量を利用して振り下ろします。力を入れる必要はなく、確実にねらった場所に振り下ろすことが重要です。

昨今、里山の機能喪失が問題になってい

ます、荒れた山から切り出した木材の有効活用として、まきづくりはピッタリでしょう。まき割りを通して、地域の里山資源の見直しと、地域コミュニケーションの活性化を図ってみたいかがで

しょうか。【秋の味覚】食欲の秋。里山では、クリ、ギンナン、アケビ、カキ、イチジクなど数々のおいしい木の実や種、果実が実ります。

私たちがこれらの実を食べるには、常に野生生物と競い合いをしなくてはなりません。当然、野生生物にとっても秋の実は大変な食べ物です。

タイミングを誤ると、たちまち先を越されてしまいます。秋になると、野生生物が里山に下りてくるというニュースが増えます。

原因は、集落の過疎化・高齢化による人間活動の低下、手入れされなくな

った里山にえさ場や隠れ場所となる耕作放棄地の増加、少雪傾向に伴う生息域の拡大等が影響していると考えられています。

また、狩猟者の減少や高齢化による捕獲数の低下もあるでしょう。さらに、異なるような課題に対して、木に登れないように幹にトタ

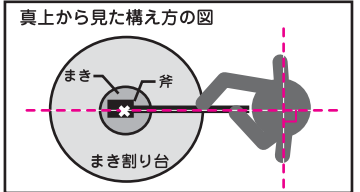
ン板を巻きつけるなどの活動のほか、地域ぐるみでの果実のむぎ取りが盛んに実施されるようになってきました。地域で協力して庭や道路脇になる実を取り去り、野生生物が

また、都会に住む人

初心者向け まき割り術

- 1 台座に薪を置き、体の中心と斧と薪が一直線上にくるように構える
- 2 薪の中心に斧の刃を当てながら、刃を落とす位置を確認する
- 3 周囲の安全を確認し、斧を振り上げる。両手でしっかり握ること。
- 4 斧の重さを利用し、薪に打ち下ろす。
- 5 必要な太さになるまでこの作業を繰り返す。

- 準備物
- ・動きやすい服装
 - ・安全靴
 - ・滑り止め付き軍手
 - ・まき割り台
 - ・斧（初心者向けには刃の厚みがあり、3kg程度の重量があるものがお勧め）



斧がまきに打ち下ろされた瞬間



福山市泉学区公衛協【修学旅行にマイ箸携行】

福山市立泉小学校（福山市山手町）の6年生児童が8月28日、秋の修学旅行で使用

する「マイ箸」づくりに取り組んだ。この事業は、毎年、福山市泉学区公衆衛生推進委員会と地元の矢田町内会衛生部のメンバーが、PTC活動の1つとして実施し、今年で4年目となる。

この日は、児童50人に保護者とスタッフで総勢約100人が真夏の体育館に集合した。

初めに、「地球の温暖化について学ぼう」と題して、今年、近くの神社で起こった水害の写真や、クイズ形式にまとめたビデオを観賞し、子どもたちに地球温暖化の問題について、より身近に感じてもらう環境学習会を実施した。

その後、およそ一時間にわたって、親子が協働してマイ箸づくりを行った。箸の材料となる竹は、衛生部のメンバーが近所から切り出したもので、児童は竹をきれいにヤスリで削って形を滑らかに整え、慣れない手つきで針と糸を使って、箸袋を上手に縫い合わせていた。



それぞれ自分が使いやすい「箸」と「箸袋」を作成

最後に、マイ箸の必要性として、日本の割り箸使用量は年間約260億膳、1人あたりに換算すると約200膳がごみとして廃棄されていることを説明。

環境問題の観点から、割り箸を使うべきという意見がある中、日本で使われている割り箸の約97%は海外からの輸入で賄われている実

状を解説した。三宅義明会長は「修学旅行に自分で作ったマイ箸を持っていくことで、環境問題を身近に感じるきっかけにしたい」と語った。このマイ箸づくりは、地域活動支援基金を活用した「環境と健康のコミュニティ活動助成事業」の一環として実施している。

野生生物との真剣勝負

里山機能を振り返る

常気象により奥山では食料が十分に確保できないという要因が重なるケースも増えています。

丹精込めて作られた作物の農業被害だけでなく、人的被害も報告され、その数は近年増加の傾向を示しています。

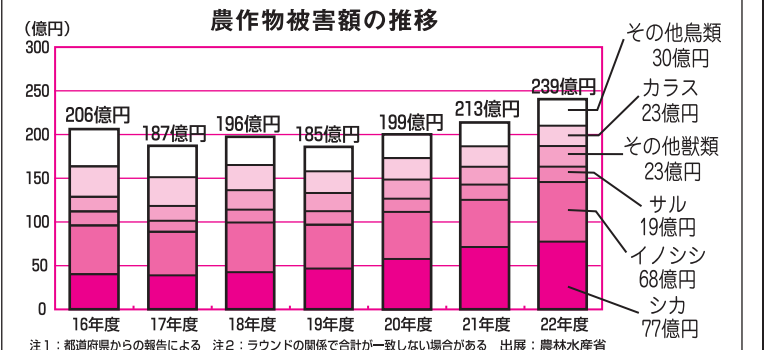
このように課題に対して、木に登れないように幹にトタ

ン板を巻きつけるなどの活動のほか、地域ぐるみでの果実のむぎ取りが盛んに実施されるようになってきました。

地域で協力して庭や道路脇になる実を取り去り、野生生物がまた、都会に住む人

しかし、根本的な解決につなげるためには、里山や耕作放棄地を見直し、人と野生生物の境界線を復活させなければなりません。

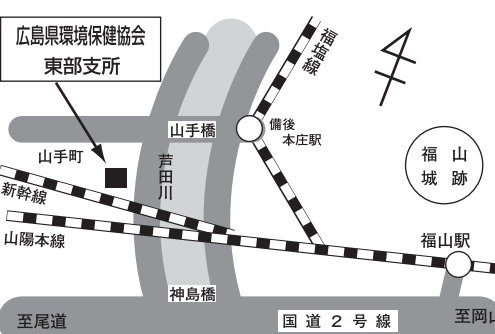
また、都会に住む人



りません。(地域活動支援センター 馬場田 真一)

東部地区の検査受付は、支所でも行います!

食品検査・衛生検査・飲料水検査・環境検査など
【受付時間】月曜日から木曜日 8:30~17:30



財団法人 広島県環境保健協会
東部支所
〒720-0092 福山市山手町5-32-26
TEL 084-952-0007
FAX 084-952-0009

